

1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

○最終目標: 標準学力分析検査におけるFスコア国語50、数学50以上を目指す。

○短期目標: 前年度標準偏差値+1P

3. 指標にむけての取組

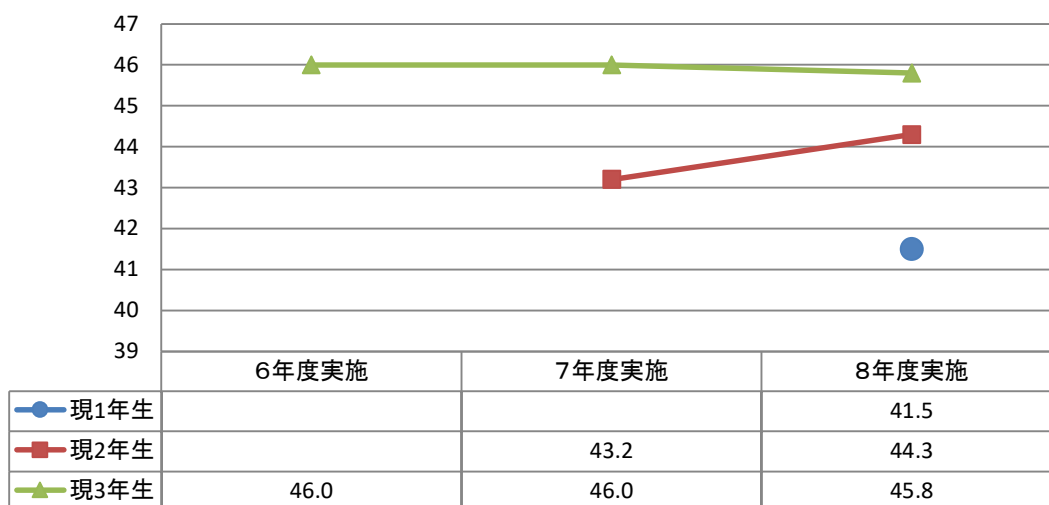
- ◆稲東タイムでの通過率80%以上合格の継続
- ◆小テストでの通過率80%全員合格できる指導方法と問題作成の工夫
- ◆単元テスト 教師が決めた合格ライン(65%～75%)全員合格
- ◆タブドリを用いた基礎基本の徹底

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
本校(A)	44.1	42.4	44.7	44.2	43.9
嘉麻市(B)	46.0	45.5	45.8	45.8	45.1
(A)－(B)	-1.9	-3.1	-1.1	-1.6	-1.2
標準偏差値との差 (A)－(50)	-5.9	-7.6	-5.3	-5.8	-6.1

各学年の推移



5. 各学校における分析

- 稲東タイム(学力向上のための朝の学習)において、小テストに合格した生徒だけでなく、未達成者には再テストを繰り返し実施することで基礎基本の定着を図ることができた。
- 学期ごとの定期テストに加えて単元テストを実施したことで、試験範囲の広さによる生徒の学習負担を軽減し、各教科において集中して学習に取り組むことができた。
- 単元テストや期末テストの学習内容の定着のために、全員提出を目指してワークなどの家庭学習の点検を定期的に行い、誰一人取り残されない指導の徹底を行った。
- 8年生では9月に一度目標の5ポイントアップに近づくことができたが、結果としては1ポイントアッ

6. 各学校における今後の取組

- 本年度は現状のFスコアをプラス1させる取組として、
- ①学びの姿勢づくり、学習規律と朝の静かな学習の雰囲気づくりとして朝読書に取り組み、活字離れの傾向にある生徒の読書習慣の確立と、静かに話を聴くことができる体制を整える。
 - ②授業改善として、「問づくり」「思考づくり」「価値づくり」の3つに焦点を当て、生徒が興味や関心を持って授業に臨むことができること、他者との交流の前に自分の意見を持つこと、授業の振り返りにおいて、わかったことや疑問点を明確にして次の授業へステップとすること等本校の授業スタンダードを基本とした授業づくりに取り組む。
 - ③稲東タイムや単元テストにおいて従来通り通過率を設定し、未達成生徒への追指導を行うとともにICT等を活用し指導と評価について振り返る機会とする。
 - ④定期テストにおいて、基礎基本を重視しながら、思考力を問う問題にもチャレンジさせることで、表

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 分かる授業づくりのために、単元テスト等によるより短いスパンでの子ども達の状況を把握し、個に応じた指導を充実させることで、授業改善を図っていく。
- 子どもの思考活動の充実を図るために、一単位時間の授業の流れのモデルを基にした授業づくりやICT機器を効果的に活用した授業づくりの推進に努める。
- 家庭学習の習慣化を推進するために、「家庭学習のすすめ」等を活用した効果的な家庭学習の設定について改善を図る。
- 上記の3点について、嘉麻市学力検証委員会や主幹教諭研修会等において各校の取組を交流することで、各校における確実な実施を図るとともに、好事例の紹介や組織的な取組の在り方についての指導助言を通して、充実を図っていく。